

頑張る

農業法人

綾部市小畑町の農業生産法人、(株)丹波西山。5代続く農家の西山和ersonさん(31)と秀人さん(29)兄弟が、亡くなった父親の後を継ぎ、事業の安定化に向け2012年9月に法人化した。経営の主力は米。2人とも有機JAS認定を受けて、酒造会社との契約で酒造好適米や、個人客への主食用米を特別栽培している。

同市西部に位置する小畑町は中山間地で、水田や畑が広がる農村地帯。西山家は古くからの農家で、祖父時代は葉タバコを中心に営んでいた。後を継いだ父親の徹さんはたばこを吸わなかったため、4籾で米を主力とした経営に切り替えた。当時和ersonさんは教員を

目指し、秀人さんもサラリーマン。兄弟はほとんど農作業に携わっていなかった。そうした中、父親の病が見つかった。和ersonさんは、父の意志を引き継ぎ「客との契約栽培米は守る」と就農を決意。秀人さんも実家に戻り、地元で就職して手助けを始めた。

07年5月に父親が亡くなると、2人は経営継承、規模拡大のため共同経営を始める。社会的信頼を向上させるために法人化した。

代表取締役は和ersonさん、取締役は秀人さん。若い兄弟が設立した法人は京都府内でも珍しい。JA京都にのくには、細やかな支援で経営をサポートしている。

経営継承後、徐々に面

綾部市
小畑町

株式会社 丹波西山

水稲無農薬栽培の水田を前に元気な和ersonさん(左)と秀人さん



地域農業振興目指す

若い兄弟がこだわり栽培

米の他転作として2籾で京都大納言小豆や白大豆にも取り組む。

「父が亡くなったときは26歳。弱気になったこともあったが、JAや青年部の助言、協力でここまでやれた」「栽培技術も徐々に身に付き、兄弟で力を合わせ経営も右肩上がりになってきた。契約先の酒造会社や個人客も親切」と2人は喜ぶ。

地域の高齢化が進む中、地域農業全体の振興に向け、休耕田管理なども視野に入れる。研修生を受け入れ、新たな就農者の育成も目指す。「われわれの子どもが後継者になるかどうか分からないが、仲間を増やし法人を継承して地域の農地、農業を守っていききたい」と、2人は抱負を語る。

▽法人所在地 綾部市小畑町原貝59。電話 0773(47)0576。

積を拡大し、現在は約14籾で「日本晴」など酒造好適米5品種、「コシヒカリ」など食用米2品種、もち米など多品種の水稲栽培を行っている。父の

遺志を継いで無農薬、無化学肥料のこだわり栽培なども手がけ、販売先の信頼も高い。「日本晴」など酒造好適米は、伏見の招徳酒造との契約栽培

でさまざまな純米酒が作られている。また、「招徳西山」と名前を冠した酒も生まれ、錦市場の老舗「津之喜酒舗」の自主企画商品として売り出さ